

千葉市感染症発生動向調査情報

2018年 第28週 (7/9-7/15) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		28週	27週	26週	25週
上段: 患者数 下段: 定点当たりの患者数	小児科	16	18	18	18
	眼科	5	5	5	5
	インフルエンザ	24	27	28	28
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定 点	感 染 症 名	千 葉 市					千葉県
		注意報	7/9-7/15	7/2-7/8	6/25-7/1	6/18-6/24	7/2-7/8
			28週	27週	26週	25週	27週
小児科	RSウイルス感染症	○	13 0.81	6 0.33	6 0.33	5 0.28	41 0.31
	咽頭結膜熱	○	11 0.69	8 0.44	6 0.33	9 0.50	136 1.01
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		44 2.75	51 2.83	45 2.50	64 3.56	410 3.06
	感染性胃腸炎		62 3.88	83 4.61	123 6.83	124 6.89	587 4.38
	水痘		5 0.31	10 0.56	9 0.50	9 0.50	84 0.63
	手足口病		4 0.25	26 1.44	17 0.94	14 0.78	135 1.01
	伝染性紅斑		3 0.19	2 0.11	2 0.11	5 0.28	51 0.38
	突発性発しん		3 0.19	15 0.83	19 1.06	19 1.06	72 0.54
	ヘルパンギーナ	○	34 2.13	33 1.83	14 0.78	4 0.22	273 2.04
	流行性耳下腺炎		4 0.25	1 0.06	3 0.17	3 0.17	28 0.21
インフル	インフルエンザ(高病原性鳥インフルエンザを除く)		0 0.00	2 0.07	1 0.04	0 0.00	24 0.11
眼科	急性出血性結膜炎		1 0.20	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.03
	流行性角結膜炎		4 0.80	6 1.20	4 0.80	2 0.40	28 0.80
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 1.00	0 0.00

★★: 流行中 ★: やや流行中 ◎: 増加 ○: やや増加 →: 変化なし ↓: やや減少 ↓↓: 減少

2 全数報告対象疾患(7件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	50歳代	IGRA検査	百日咳	男性	10歳代	病原体遺伝子の検出
結核	男性	60歳代	病原体等の検出等	百日咳	男性	10歳代	病原体遺伝子の検出
後天性免疫不全症候群	男性	40歳代	血清抗体の検出等	百日咳	女性	10歳未満	病原体遺伝子の検出
播種性クリプトコックス症	男性	80歳代	病原体の分離・同定	-	-	-	-

・第28週は、結核2件(102)、後天性免疫不全症候群1件(1)、播種性クリプトコックス症1件(1)、百日咳3件(66)の報告があった。

※ ()内は2018年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第28週のコメント

<RSウイルス感染症> 前週より増加し0.81となった。過去10年の同時期と比べると最多。

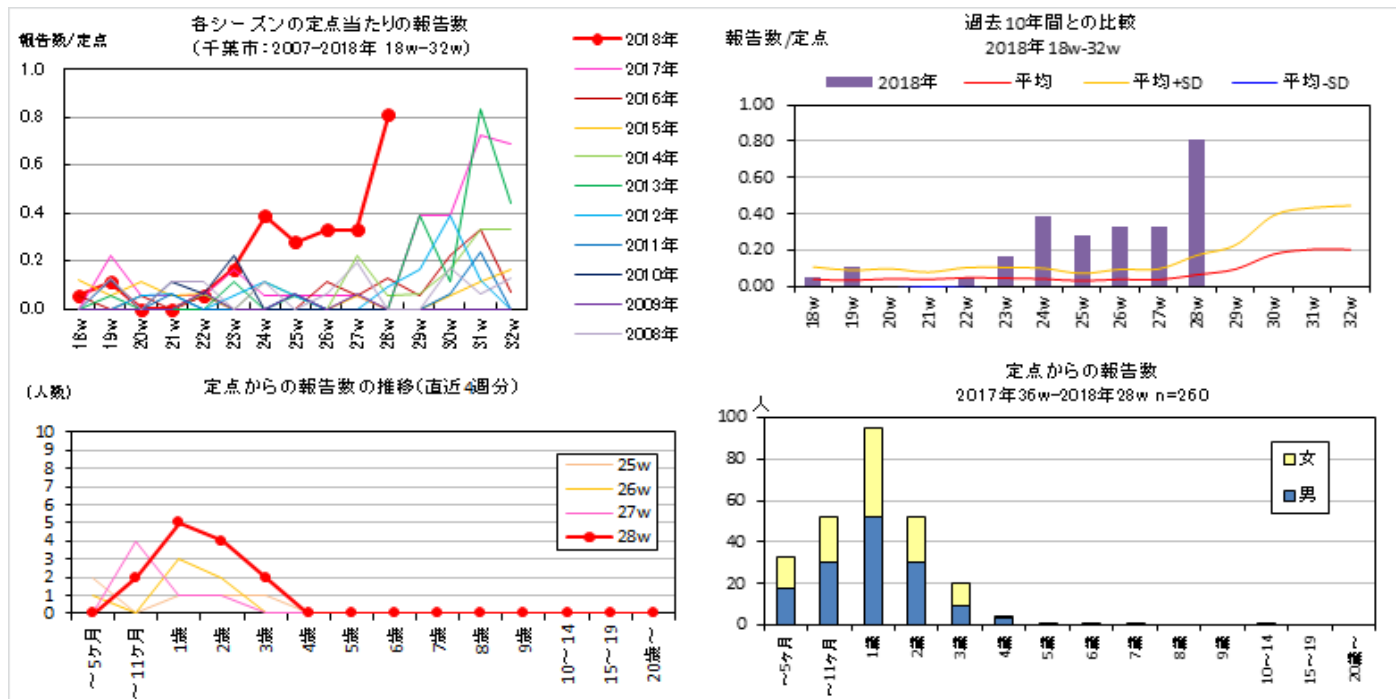
<咽頭結膜熱> 前週より増加し0.69となった。過去10年の同時期と比べると多め。

<ヘルパンギーナ> 前週より増加し2.13となった。過去10年の同時期と比べると少なめ。例年の発生動向によると今後増加する可能性あり。

■ トピック ■

<RSウイルス感染症>

全国レベルは第12週から過去10年の同時期に比べ最多の状態で推移しており、第27週も同様となっています。都道府県別では沖縄県、山口県、福島県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べるとやや少なめとなっています。千葉市の第28週は前週より増加し0.81となり、過去10年の同時期と比べると最多となっています。区別の発生状況は、中央区(2.5/定点)で最多で、同区の1歳及び2歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2017年第36週から2018年第28週までの累積報告数(n=260)によると、性別では男性が55.2%(143名)、女性が44.8%(117名)で、年齢階級別では1歳(36.5%:95名)、6~11か月及び2歳(共に20.0%:52名)の順で多くなっています。



<咽頭結膜熱>

全国レベルの第27週は、過去10年の同時期と比べるとやや少なめとなっています。都道府県別では新潟県、埼玉県、沖縄県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べるととても多くなっています。千葉市の第28週は前週より増加し0.69となりました。過去10年の同時期と比べると多めとなっています。区別の発生状況は緑区(2.0/定点)で最も多く、同区の4歳で最も多く発生報告がありました。2018年第1週から第28週までの累積報告数(n=85)によると、性別では男性が52.9%(45名)、女性が47.1%(40名)で、年齢階級別では1歳(27.1%:23名)、4歳(18.8%:16名)、2歳(17.6%:15名)の順で多くなっています。

